

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	小黒岳志
研究課題	統語論における談話参加者の存在 ― 談話小辞を中心に ―				
研究キーワード	統語論, 談話参加者, 談話小辞	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究では、話し手や聞き手といった談話参加者を統語論的実在として扱い統語論に表示させるという Speas & Tenny (2003)などの考えを推し進めるという立場から、談話小辞の統語的ふるまいを検討しようとした。

しかし、コロナ禍のために、リモート教育を余儀なくされその準備のために研究に十分な時間を当てることが出来ず、当初の計画どおり研究が進まなかった。

しかし、この考えを動機づけるための、当初の想定とは異なる言語現象に基づく議論に関する着想を得ることができた。次年度でこちらの研究をすすめたい。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

【論文】酒井志延, 朱珉, 山崎聡, 小黒岳志, Gildart Samuel, 白土さゆり, 加藤澄恵, 野川浩美, 吉田由美子. 2021. 異文化理解教育作成の必要性, 作成とその検証. 千葉商大紀要,59(2),29-47 (2021-11-30)

【学会発表等】

研究活動のために PC を購入した。

3. 主な経費

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特にありません。

(本文は2ページ以内にまとめること)